

野付の千島桜治療業務委託実施報告書

2023年11月30日 樹木医 金田正弘

1. 春5月の処置

2023年野付の千島桜の手入れ作業は、5月27日（土）から6月1日（木）の期間実施しました。今年の開花は、おおむね良好で昨年より少し早かったようです。

この時期の観察は、緑葉初期の若葉が旺盛に付いていました。健全度良好と思われます。

(イ) 着工前と完成



着工前

(校舎前から正面)



完成



着工前

(東側)



完成



着工前

(西側)



完成

(ロ) 混合土の作成



土壤改良資材

土壤改良資材は、ピートモス、もみがらくん炭、パーライト、鹿沼土、赤玉土、火山礫を用意しました。



くん炭入れ



赤玉土入れ



ピートモス入れ



各資材の混合状況



混合土

用意した土壤改良資材を入れて、よく混ぜあわせます。袋に入れて混合土を作りました。

(ハ) 根系周辺の施肥



①施肥の資材

(上) は、まるやま3号固形肥料 (3-6-4)。

(下) は、高度化成肥料 (15-15-15)

(右) は (ロ) で作った混合土



②穴あけ作業



③まるやま 3号施用



④混合土施用



混合土の拡大



⑤高度化成肥料施用



⑥施肥の完成

施肥の位置は、外柵周辺部で、あらかじめ除草しています。用意した3種類の資材を使用しました。穴あけ作業は、金棒を使って10~20cmの深さに3ヶ所ずつ穴をあけました②、まるやま3号固形肥料を入れ③混合土を入れ④て穴をふさぎました。この上に高度化成肥料を散布し⑤、施肥の完成です⑥。



着工前



完成



着工前



完成



着工前



完成

(二) フジミンフォレストの施用



フジミンフォレスト



施用状況

根系施肥箇所(f)にフジミンフォレスト(フジミンのペレット状資材)を少量施用しました。フジミンは、先に施用した肥料、土壌改良剤等の働きを助ける植物活性剤です。粒状化させ効力を持続させます。

(ホ) 樹冠部の枝切り



枝切り状況



切口の保護塗布状況

古くなった千島桜の樹冠内外部は、枯枝が目立ちます。又、不用な枝やてんぐす病被害枝等も発生し、注意深く観察し、ハサミ、ノコ等で切除します。太い切口は、保護剤（トップジンMペースト）を塗って保護します（切口のゆ合促進、病害侵入防止等のため）。

(へ) 太い幹の腐朽、傷の保護処置



①着工前



②完成



③幹の切削り整形



④地衣類等の削り落し



⑤保護剤の塗布状況

野付の千島桜の幹は、巨大で何本も株立状に長く伸長しています。一部の幹は、傷つき、腐朽が進行しています①、それらを切削り整形し③、保護剤（トップジン M ペースト）を塗布しました⑤。ついでに地衣類等の付着を削り落としました（粗皮けずりは、古くなった樹皮を活性化させる）。少し幹がリニューアルできたようです②。

(ト) 薬剤散布



散布用器具



トップジン M 水和剤、ダイン



薬剤の散布状況

薬剤の散布は、樹冠内外部枝葉に発生する幼果苗菌核病対策としてトップジン M 水和剤の 1000 倍液を全体に散布しました。この病気は、根絶が難しく継続した散布が必要です。

2. 秋 10月の処置

秋の手入れは、10月28日～11月2日の期間実施しました。天候にめぐまれ順調に作業をすることができました。過年度には、降雪があった時もありましたが、今回とても暖かく驚いています。寒さに適応したチシマザクラにとって温暖化が生育にどのような影響を及ぼすものなのか、作業をとおして観察できればと思っています。

(イ) 着工前と完成



着工前

(校舎正面より)



完成



着工前

(南角より)



完成

(ロ) 混合土の作成



土壌改良資材



混合状況



混合土

混合土の作成は、火山礫を主体にピートモス、もみがらくん炭、パーライト、鹿沼土、赤玉土、堆肥をよく混ぜて作りました。

(ハ) 根系施肥作業



施肥資材



穴あけ作業



まるやま 3号施用



混合土施用



高度化成肥料施用

(ニ) フジミンフォレストの施用



フジミンフォレスト、混合土



フジミンフォレスト施用



混合土の施用



着工前



完成



着工前



完成

(ホ) 樹冠部の枝切り



着工前



完成

樹冠部の太枝の枯れが目立っていました。今年の生育期間の高温は、30℃越えが連続したようです。元々弱っていた枝がかなりの数枯損したのでないかと思っています。できるだけ見つけ切除しました。



てんぐ巣病枝 (切除前)



切除後の被害枝

サクラ類てんぐ巣病と思われる被害枝が散見されました。今年の暑さの影響ではないようですが、今後とも注視しなければなりません。できるだけあやしい枝を含め切除したつもりです。



切口の保護塗布

枝切り後の切口は、保護剤（トップジンMペースト）を塗布しました。



枝切り状況

(〜) 幹の傷、腐朽の処置



着工前



完成



保護剤の散布状況

春5月に引きつづき、太い幹部の傷口、腐朽部を切削り、保護剤を塗布しました。傷口は、大きく今後も継続した処置が必要です。

(ト) T形支柱の設置



支柱の設置



着工前



完成

設置した支柱は、年々腐れ等痛みます。順次設置替えが必要で今後も継続する考えです。

(チ) 薬剤の散布



噴霧器



ベフラン剤、ダイン

幼果菌核病の葉ぐされ防除として、ベフラン液剤と展着剤ダインを使用しました。



散布状況

(リ) 野付の千島桜の行く末

最初に見た野付の千島桜は、てんぐ巣病らしい異常な枝が目立った元気のない樹姿でした。以来、長年にわたり継続した樹勢回復の処置を実施しました。結果、徐々に元気を取り戻しました。近年の開花状況は、大変良好で、人気の千島桜になったようです。

今年の猛暑は、道東野付周辺も例外でなかったようです。地球の温暖化は、世界的に起こっている現象です。来年以降も暑さが続くと予想されます。寒さに適応した千島桜の行く末が気になります。樹木は、生育環境が悪化したからといっても簡単に移動することができません。私達は、今後も生育状況を観察することしかできません。もう少し管理作業を継続する必要があるようです。